

・優秀賞

おはなみのおにぎり

田面木小学校（八戸市）

一年 高比座 花穂

はるに、おはなみにいきました。おうちのちかくのはくさん
だいこうえんです。さいしょに、ままと、おとうとと、わたし
の三にんでいきました。さくらがとてもきれいでした。ひいお
ばあちゃんにもみせたいとおもったので、いそいでくるまでひ
いおばあちゃんのいえにおむかえにいきました。そして、四に
んでおはなみをしました。

こうえんでおとうととすべりだいをしたり、はしったりして
あそんだあとに、さくらのきのしたにしいとをしいて、みんな
でおにぎりをたべました。おにぎりは、あさにままがつくった
ものです。ちいさいおにぎりと、おおきいおにぎりがありまし
た。こんぶのあじでした。まだあたたかかったので、とてもお
いしかったです。ひいおばあちゃんにも、おにぎりをたべるか
ききました。「いらないよ。」というかとおもいました。いつ
もひいおばあちゃんは、「いらないよ。たべていいよ。」とい
うからです。でも、こんかいは、たべました。わたしとおとう
とも、どんどんたべました。さくらをみて「きれいだね。」と

いたり、「おいしいね。」といたりしてたべました。ひい
おばあちゃんもわらってたべていました。ままがもういつた
べようとしたら、もうありませんでした。ままは、ないしょで
びっくりしていました。ひいおばあちゃんと、「また、おはな
みしようね。」とばいばいしました。

あとで、くるまでおとうとが「ばば、おおきいおにぎりを二
こたべてたよ。」といいました。三にんでおおわらいをしまし
た。ままは、

「みんながおにぎりをよろこんでくれてうれしいよ。」といっ
ていました。

また、みんなでおはなみにいきたいです。

ばば、はやくげんきになって、たいいんしてね。また、あそび
にいたり、いっしょにがっこうにあるいていたりしようね。



・優秀賞

おこめのかみさま

千刈小学校（青森市）

二年 葛西咲月

わたしのおばあちゃんちで、ぶつだんと、かみだなに、おこめをあげています。そのときは、しずかに手を合わせてあげています。小さな白いおさらに、むかしばなしであるような、もっこりした、おこめをあげています。

「どうして、おこめをあげているの。」

と、わたしはききました。すると、おばあちゃんは、

「いきている人とおなじで、おなかがすくからだよ。」

と、やさしいかおで、にこっとわらっていました。わたしは、はじめてきいたので、びっくりしました。一ばんびっくりしたのは、人げんとおなじおこめをあげていることです。そして、おばあちゃんは、

「おこめには、あまてらすおおみかみさまという、かみの長い女のかみさまがいるんだよ。」

と、おしえてくれました。わたしは、「わたしたちは、かみさまをいただいているんだなあ。」と思いました。

いままでは、なんにもかんがえないでまい日ごはんをたべていたけど、これからは、かみさまに、「ありがとう。」というきもちでたべようとおもいました。

うちにかえってから、おかあさんにそのはなしをおしえてあげようとおもいました。おかあさんに、おこめをたぐときに、かみさまがいるんだなとおもってほしかったからです。

「おかあさん、おばあちゃんが、おこめには、かみさまがいるんだっていったよ。」

というと、おかあさんは、だいどころからにっこりわらって

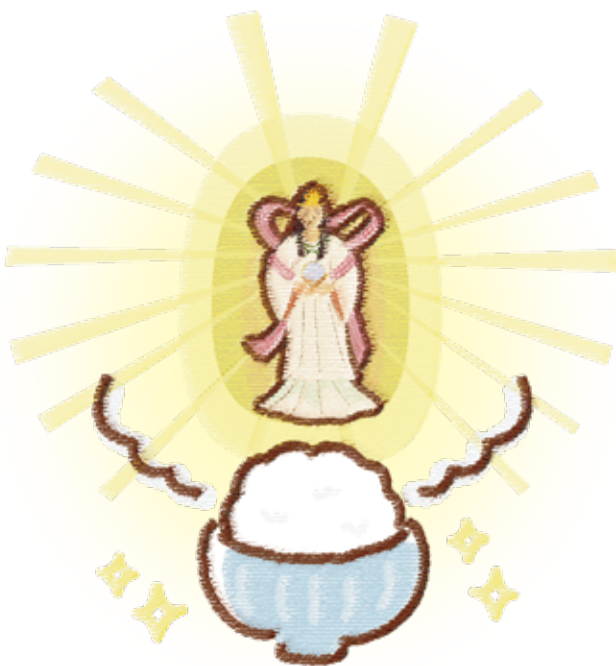
「んだの。」

と、かんしんしたようにいました。

ゆうごはんのとき、おちゃわんをみて、

「このおこめにも、かみさまがいるんだな。」

とおもいながらたべました。



・優秀賞

今日もぐ飯は完食です。

新城小学校（青森市）

三年 佐藤基慈

一昨年いっせんねんの冬、ぼくはお父さんの仕事の都合で東京から青森に引っ越してきました。引っ越しの次の日から新しい学校に通い始めました。

ぼくには一つ問題がありました。給食で出される白米だけを食べるのが苦手で、東京の学校では、白米を完食したことがありませんでした。引っ越し後しばらくは、色々と分からないことばかりで気づきませんでしたきづきませんでしたが、いつの間にか給食の白米を完食するようになっていました。

ある日、家族で焼き肉を食べに行った時のことです。お父さんがめずらしく、お店で出された水をごくごく飲んでいました。「東京の水はくさくて飲めなかったけれど、青森の水はおいしいね。」

と言いました。ぼくは、「そうか、青森は水も米もおいしいから、給食の白米を全部食べられるようになったんだ。」と、気がつきました。

ぼくの将来の夢は科学者になることです。そして環境を守る宇

宙の研究をしたいです。そんなぼくは、環境のためにも給食を残したくありません。なぜなら食品ロスが、環境に負荷を与えているからです。東京ではどうしても完食できなかった白米。青森のおいしい水と米がぼくの不可能を可能に変えてくれました。今日の給食のご飯も「完食」です。



・優秀賞

妹へのおにぎり

和徳小学校（弘前市）

二年 佐藤 千歩

わたしは、ねぶたのとうとうんこうに行く前、妹におにぎりを作ってあげました。ごはんをたべずに行くと、ねぶたをひっぱるのにおながすいて力が出ないからです。おばあちゃんがおしごとからかえってきて、きがえているあいだに作ります。

おばあちゃんは、たまにおやつにおにぎりをにぎってくれます。おばあちゃんのおにぎりは、しょっぱすぎず、うすくなく、ぜっぴんです。早くておいしいので、わたしも、おばあちゃんみたいにかっこよくにぎれるようになりたくて、れんしゅうしています。わたしがおにぎりを作る時は、まずちょうり台にラップをしき、その上にしおをふりかけます。そしてごはんをのせて、ぐの「さけわかめ」をかけ、またごはんをかぶせて、にぎります。ごはんはあついけれど、妹にアツアツをたべさせたいので、がんばってにぎります。

はじめておにぎりを作った時、妹は、

「ねえねのおにぎりおいしいね。」

と言ってくれました。それを聞いてわたしは、また作ってあげる

ことにしました。二回目に作った時は気をつけたことがあります。それは、ごはんを多く入れすぎると、にぎれなくなるので、たくさんをせすぎないようにすることです。ことしのねぶたまつりは、おわりましたが、ねぶたじゃない時間も作ってあげたいです。



・優秀賞

おちやわんのひとつぶ

東北小学校（東北町）

一年 萌^も出^{だし}悠^{はる}陽^ひ

ぼくは、しろいごはんがだいすきです。なぜかというと、おいしいからです。

ぼくのおじいちゃんは、たんぼでおこめをつくっています。ぼくはまいにち、おじいちゃんがつくったおこめをたべています。おじいちゃんのいえへいくと、おじいちゃんは、あさからたんぼにいます。あきになるといねかりをします。おじいちゃんはいねからひとつぶ、ひとつぶおこめをあつめています。ぼくはそんなおじいちゃんを、すごいなあとおもいました。おじいちゃんがつくったおこめをたいせつにしようとおもいました。ごはんのとき、おとうさんが、

「おちやわんについているごはんも、かりかりしてたべなさい」といいます。ぼくはいつも、

「またかあ」

とすこしいやなきぶんになっていました。でも、おとうさんがいつもいつてくるわけがわかりました。おじいちゃんみたいに、ひとつぶ、ひとつぶたいせつにそだてて、おこめができて

います。ぼくはおちやわんについているごはんを、ひとつぶものこさずたべようとおもいました。ぼくはやっぱり、しろいごはんがだいすきです。

